

甲斐市立竜王南小学校 平成26年度 前期学校関係者評価書

平成26年7月18日

竜王南小学校関係者評価委員会

記載責任者 学校関係者評価委員 志村 秀剛

【第1回 学校関係者評価委員会】

- 1 実施日：平成26年7月18日(金)午後7時30分～
- 2 会場：会議室
- 3 参加者：学校関係者評価委員

学校評議員(4名)				出席者 計8名	
つるたしげお 鶴田重雄	かじわらてるお 梶原照夫	こみやましんいち 込山伸一	しのはらみよこ 篠原美代子	欠席者 計4名	
PTA役員(4名)					
会長	副会長				・鶴田重雄 ・込山伸一 ・志村秀剛 ・西川孝雄
しむらひでたけ 志村秀剛	さんのうまさのり 山王正徳	ないとうとしこ 内藤敏子	えんどうひろえ 遠藤裕恵		
学校職員(4名)					
校長	教頭	主幹教諭	生徒指導主任		
ほりうち さとし 堀内 訓	ないとうかずひこ 内藤和彦	しんどうまさかず 進藤雅一	にしかわたかお 西川孝雄		

4 学校側から提案された内容

○学校評価アンケートの分析について

- (1) 教職員自己評価の結果
- (2) 本校児童アンケートの結果
- (3) 結果概要説明

5 協議内容・意見

○竜王南小学校前期自己評価書に関する考察

(教職員・児童・保護者アンケートの考察／改善方策に対する検証)

(1) 学校側から提案された全体評価考察

今年度は、校長をはじめ大きな職員の異動があったものの、昨年度から継続して掲げている学校教育目標「楽しい学校（楽校）の創造」を達成すべく多くの活動が1学期の中でも行われてきた。また、この2年間甲斐市教育委員会指定「習得・活用・探求する児童の育成推進事業」に取り組んだ。校内研究のテーマは、「いきいきと学び合い楽しくわかる授業」として、全校一丸となって実践を積み重ねてきた。今回の評価の中にも、研究の柱としてQUによる学級経営の分析と改善、仲良く楽しい授業の実践による成果が少しずつ表れてきたものといえる。

特に今年度、学校長から児童の行動目票として①「授業に集中」しよう。②「あいさつ」をしよう。③「命を大事に」しよう。の三点の具体的な方針が示された。1学期の取り組みの中で、児童に少しずつ浸透してきたように感じる。授業の楽しさという点では、A+Bの値で94%以上、あいさつも91%以上、安全面では95%以上という高い値を示していることから分かる。

しかしながら睡眠時間や児童の読書時間の取り組みに、個人差が見られるなどの課題も明確となってきた。児童一人ずつの頑張り、学校での取り組み、そして保護者や地域の方との協力体制をより強固なものにして、日々の学校の活動のみならず2学期に行われる公開授業研究に向けて、より良い学校教育目標の具現化に努めていくことが必要である。

(2) 意見交換(参加者からの提言等)

・ 進め方と意見交換の様子について

今回の学校関係者評価委員会は、今年度初めての開催、新しい評議員の方の参加などがあり、自己紹介をしスタートした。短い時間の中でより話し合いを充実させる目的の下、事前に説明書を評議員、PTA役員に配布をして、アンケート結果の細かい点や学校への質問事項をまとめていただくことを行った。また、当日都合により参加できない方にも、あらかじめ資料に目を通していただき意見を事前に聴くことができたことは大変良かった。

事前に意見や考えを持ち合う中で、自由に発言していただき、実情・改善について話し合った。出席者全員が意見を述べるなど積極的な意見交換ができたといえる。また、学校内にとどまらず地域の実情や取り組みなど、学校だけでは分からない点についても情報交換ができ、予定されていた時間を大幅に上回る会議となった。初めて出席する方もおられたので、結果や説明に対する質問も多く出され、学校に対する関心の高さがうかがわれ有意義な時間となった。

*具体的な回答状況については、自己評価書を参照してください。

・ アンケートから見られる学校の楽しさについて

今回の児童のアンケートの設問の一番目にあり、学校の教育目標にも関わる「学校の楽しさ」について意見が挙がった。竜王南小学校全体ではA（とても思う）+B（ややそう思う）で94.7%ととても高い数値を示しているのは、学校としての取り組みが児童の生活の向上にうまく反映していることがとても良い、という意見をいただいた。児童たちが学校を何より楽しく感じていることが、学習面や生活面で良い方向へ今後も導いてくれることに繋がると感じていた。特に、その楽しさの根源はどこにあるかと言うと、No. 3の設問の「こまったことがあったら相談できる友だちはいますか。」の項目がA+Bで97.1%という高い数値から、学校の中での友達との関わりが児童の楽しさに結びついているのではないかと、という意見が出された。クラス内の仲間作りはもとより、縦割り活動や登校班などで多くの児童とふれ合っていることが、良い影響を与えているのではないかと推測された。

- **地域との連携**

いろいろな場面で地域の方々に支えてもらっていることにまず感謝をした。登下校の安全指導、農園の活動、米作り、グリーンカーテンの設置、芝生の管理など多方面にわたっており、児童にとっても強いつながりがある。今では児童たちだけでなく、職員からもあいさつや声かけをしてくれるようになったことが、地域の方には何よりうれしいというご意見もいただいた。地域の方と職員とのつながりがより綿密になってくれば、今後の活動もよりスムーズになり児童の教育効果も高まるものと思われる。

- **家庭学習(宿題)の取り組みについて**

アンケートの結果からは、児童の個人差が学力に大きく表れてきている課題が挙げられた。特に宿題の取り組みについてはD(やらない)という児童が5.1%もいることから、各家庭での宿題等の取り組みの話題になった。「上の学年になればなるほど、本人に任せることが多い。」という意見や、「分からない課題について先生に聞かないでそのままにしている」というアンケートからの問題が指摘された。家庭学習については、今年度校内研究で「家庭学習の手引き」を発行していることを説明した。そして支援員などを活用して個別の指導を重ねて課題に対処している現状を説明し、今後とも児童の学力定着をより図っていくよう確認した。また、6年生が取り組んでいる「到達度別指導」についても話題になり、委員からは「6年生のみならずもう少し下の学年から取り組むことができないか。」という要望も出され今後検討していく旨を伝えた。

- **職員の共通理解による指導について**

学校生活になかなかなじめない児童などの指導方法についてのご意見をいただいた。学校生活ではそれぞれの児童に応じて多種多様な課題が起こっている中で、職員の共通理解を図りながら日々を手厚く指導にあたっていることに共感していただいた。つい問題が起きてしまうと担任や学年に任せてしまう部分が他の学校では感じられたが、竜王南小ではアンケートからも職員間での共有できている実態を今後とも続けていって欲しいという声があった。

- **学校の開放について**

保護者や地域との連携、開かれた学校を目指して多くの授業参観や学校開放日などが設定されているわけだが、保護者によっては兄妹など別々の参観ができず児童に寂しい思いをさせているのではないかというご意見をいただいた。統一した日程で行っていても問題が全て解消できないことを説明した上で、できる限り学校生活の様子を多く見てもらいたいという学校側の要望をあらためて伝えた。今後とも開かれた学校を目指して、保護者や地域の方が無理なく学校へ足を運んでいただくよう努力を重ねていくことを確認した。

- **少人数回答が少ないことに対する疑問**

C（ややそう思わない）、D（そう思わない）回答状況について、質問があった。昨年度にもこのC,Dの回答についての質問があったが、今回もC及びD回答がとても少ないのではないか、という意見があった。

当然、職員として学校全体の組織としてへの批判的な意見がなかったことは良いことで、今日までの竜王南小学校の活動が機能的に働いていたということが言える。しかしながら、より良くしていくためには変えていくことも必要であり、そういった建設的な意見を言えることもまた学校組織としては大事ではないか、それが学校を良い方向へ改善していく手立てのヒントになるのではないか、という意見が寄せられた。学校側としては、いろいろなことがオープンに言える雰囲気作りを心掛けるとともに、職員間の共通理解ができていく現状をより高めていくことが大事であると感じた。今後とも学校側として、少数の意見などにも耳を傾け、大切にしていけることを再確認すると同時に、全職員の多様な意見が出てくるよう、改善を進めていくことを確認した。